

## 中切り更新処理後の新しい枝条管理法による安定多収技術

中切り更新後の整枝処理は、1回目整枝を+ 5cm、2回目を1回目整枝位置から+ 5cmとして葉層を確保し、秋整枝は2回目整枝位置より1cm切り下げて整枝すると安定して多収となる。

農業研究センター 茶業研究所 (担当者 :甲木哲哉)

## 研究のねらい

近年は気象の変動が激しく、夏季から秋季にかけて高温・少雨で推移する傾向にある。このため、再生芽の伸育不良や芽数の減少が起こり、従来の枝条管理では翌年の生葉収量を維持することが難しくなっており、特に中切り更新園でその影響が大きい。そこで、中切り後の整枝処理について検討し、気象の影響を受けにくい新たな枝条管理技術を確立する。

## 研究の成果

- 1.新しい枝条管理法では、中切り更新後1回目整枝(7月上旬頃)を中切り位置から+ 5cm、2回目整枝(8月中旬頃)を1回目整枝位置から+ 5cmとして葉層を確保し、秋整枝を2回目整枝位置から1cm切り下げる(図1)。
- 2.この枝条管理法を用いると、標準管理法より秋整枝後整枝面の枝径が太くなり、一、二番茶はいずれも増収する(表1、図2)。

## 普及上の留意点

- 1.中切り処理は5月中旬に行い、秋整枝は平均気温が20℃以下になってから実施した。
- 2.秋整枝前の夏期整枝時期は秋芽伸育期の気温に合わせて調整する必要がある。
- 3.本成果は乗用型機械管理の「やぶきた」茶園によるもので、樹高40cm程度で中切り更新処理を行っている。

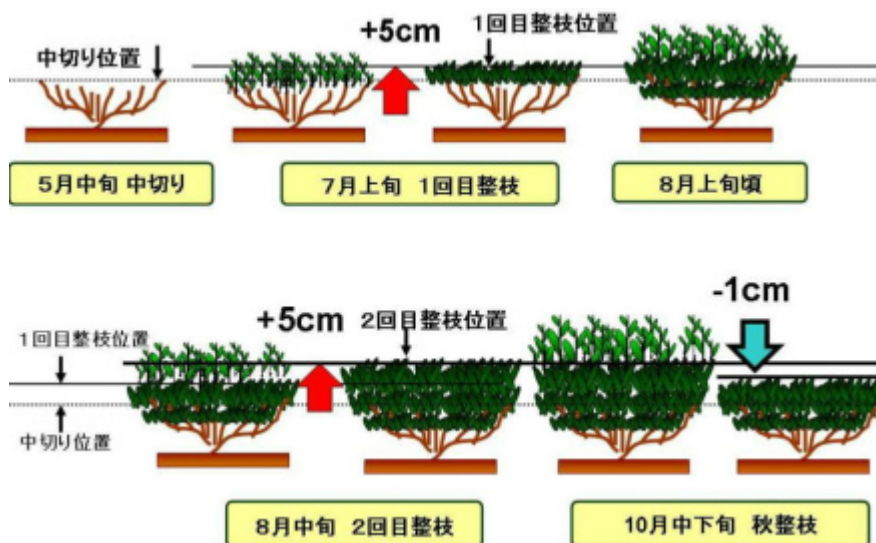


図1 中切り処理後の新たな枝条管理モデル

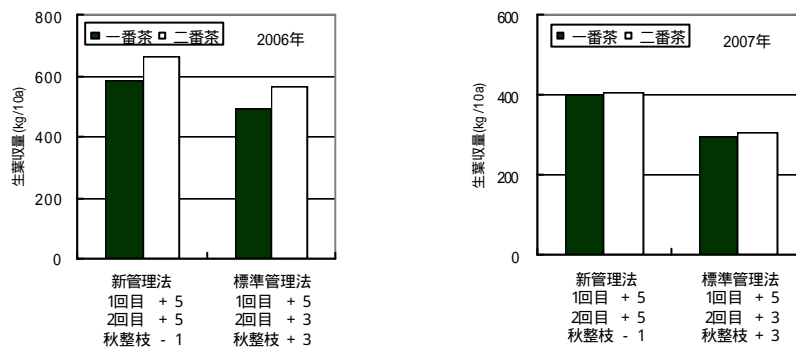


図2 一、二番茶の生葉収量(中切り処理は左図:2005年、右図2006年)

表1 中切り処理年秋整枝後の枝条状況及び翌年一番茶摘採芽の生育状況

	秋整枝後整枝面		一番茶摘採芽生育調査結果				
	枝径 (mm)	枝数 (本/m <sup>2</sup> )	出開度 (%)	摘芽長 (cm)	展葉数 (枚)	摘芽数 (本/m <sup>2</sup> )	百芽重 (g)
2005年中切りほ			2006年一番茶				
新管理法	2.62	860	56.3	4.1	2.4	1690	43.2
標準管理法	2.25	1090	88.6	2.5	2.3	1930	33.4
2006年中切りほ			2007年一番茶				
新管理法	2.09	980	14.1	6.3	3.0	1610	39.8
標準管理法	1.71	680	24.9	6.4	2.7	1260	42.2